

## 第5回 新・神戸文化ホール整備基本計画検討委員会

日時：平成31年2月25日（月）15：00～

場所：神戸市役所3号館3階 交通局大会議室

### 議事内容

#### 整備方針について

- P7に「観客・利用者に選ばれるホール」とあるが、重要なのは現状ではなく子どもや孫の世代（に向けてどうしていくのか）。半世紀後にどのようなホールになっているかを思い描き、ホールを中心に神戸のまちがつくられていくというビジョンが明確に示される必要がある。
- 「ホール」というのは1970年代に出てきた「多目的な箱」としてのホールであり、1990年代後半から2000年にかけて新しい文化施設は「〇〇ホール」とは名付けないようになってきている。今の時代は文化施設全体の使い方が考えられてきている。「ホール」という言葉を使うと、代替施設を造るという印象を受ける。「複合的な機能をもった文化施設」という意味を打ち出していったほうがいいと思う。
- 現段階で「神戸文化ホール」という名称を変更するのは大変だと思う。計画の中に文章で「今後の検討で施設のあり方を適切に示す名称を検討する」ということを示し、新しい価値を打ち出す芸術文化拠点」と書いてはどうか。

#### 中規模ホール（多目的ホール）について

- 大ホールと音楽ホールはかなり具体的に議論しているが、二期工事で建設される多目的ホールは、この先どうなるのか見通しが立っていない。多目的ホールに関しては、もっと具体的にになった段階で改めて議論することができないか。
- 「様々な分野の文化活動の発表の場」というのは曖昧なので、「演劇」「舞踊」「伝統芸能」など、具体的に示してもよいのではないか。

#### 諸室について

- 他に、舞台監督から連絡が各部署に一斉に連絡できる環境を整えること。
- 楽屋について。収容人数が、大ホールは120人、中規模ホールは80人と示されているが、出演者が多い場合には足りないだろう。具体的な人数を示すのではなく、「大規模な公演に対応できる収容人数を確保する」や、「リハーサル室などの諸室を控室として利用できるようにする」などの配慮が必要。

#### その他の機能について

- いまの文化ホールは練習室を次に使う人が待機する場所や、練習室を出て休憩する場所がない。交流や待機ができる、ゆとりのある場所を、練習室のエリアに設置していただきたい。
- 創造支援機能に「ワークスペース」や「大道具制作室」など、複数の諸室が書かれており、またそれぞれなんの役割を持つ施設なのかがわかりづらいので、整理していただきたい。
- P13に「基本的には大ホールに集約し、併設するとともに～」と書かれているが、大ホールに創造支援機能を集約させるのであれば、大道具等の移動のしやすさにも配慮が必要となる。例えば、大ホールで製作したものをEVで降ろし、運び、中ホールでまたEVで上げねばならないとなると、かえって手間がかかる。「大ホールと中ホール間の移動、輸送には十分配慮する」といった注意書きが必要。

## 運営について

- 3つのホールがそれぞれ違う場所に建設される。離れた場所の複数間の運営は、過去に例がない。また、大ホールの完成までには時間がかかるので、建設中も文化ホールの運営は継続せねばならない。相当に運営の困難さが予想されるため、運営しやすい事務所の配置や機能を設計段階から盛り込み、また、一体的に管理できることの必要性をしっかりと文章で示していただきたい。
- 雲井通5丁目地区再整備事業（新バスターミナル）Ⅰ期工事とⅡ期工事で別に建設される建物は、できるだけ職員の行き来がしやすいことが必要。それぞれの建物に事務所と、別にサテライト的な事務所が必要になると思うが、情報も人の意識も、スムーズに連絡がとれることが必要。

## 運営組織（準備室の設置）について

- 「新しい価値を生み出す総合的な文化拠点」を造る事業であれば、準備室を設置し、全国から実際に運営をする専門の人材を集め、準備をしていくべき。
- 兵庫芸術文化センターの場合は、新しく施設をつくるので早めに準備室を立ち上げていた。兵庫と神戸の大きな違いは、すでに財団があり、財団としても、新たなホールの運営のために、職員研修や人事制度を見直すなどを図り、人材を育てていきたいと考えている。それは、日々の業務を通して実践的なものとして行われるべきであり、ある意味では財団を準備室化していく必要がある。運営組織について。総務や事業、舞台技術を含め、横に連携する枠を設けられるとよいかもしれない。
- 事業部門の仕分けが古い印象を受ける。例えば、今の広報は営業だけでなく、「市民に知らせる」という役割をもつこともあり、事業の内容に関わることもある。「地域連携」も「神戸のまち全体を文化でどうしていくか」ということを考える。全体のコンセプトに関わるが、拠点があるということと、この施設を拠点として、文化芸術で神戸が

変わっていくという組織体制のイメージがあるといい。

### 大倉山地区及び市の文化政策について

- P25 に大倉山地区のことについて示されているが、「地域の活性化に資する」とあると、大倉山地区に限定された印象を受ける。「地域の活性化に資する」ということが大倉山の今後に合う言葉ではない。「全市的に検討する」という言葉でとどめておいたほうがいい。  
今の書き方だと、市民は「最終的に大倉山は文化の拠点ではなくなる」と捉えるだろう。神戸市の文化の拠点が、大倉山から三宮に「遷都」するわけではないということを表していただきたい。物理的な拠点が移動するのはわかるが、かといって大倉山地区から文化が無くなってしまいうわけではない。
  - 「全市的に考える」ということを施設の基本計画で示すことは難しい。書き方を検討させていただきたい。(市)
- 市がおっしゃったように、市内部が縦割りになっており、一体的な検討ができていない。面として各地域をどう結ぶかを検討するセッションや市議会を設けなければならないし、市民・行政関係者を交え議論し、文化について考えなければならない。その中で大倉山の件を検討していくのは必須事項だろう。

以上